

人間にとってどのような能力が必要か
—自律的に活動する能力を身に付けよう—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. この「開倫塾の時間」は、勉強の仕方についてお話をさせていただいています。教育はいったい何を目的にしたらよいのかという議論がありますので、今日はそのことについてお話をさせていただきます。
3. 目的の1つは、自分自身をコントロールする・律するためであると思います。つまり、自律的に活動できる能力を得る、身に付けるために教育というものはあるのではないかと思うのです。
OECD(経済協力開発機構)というパリに本部のある国際機関が「国際標準の学力を目指して—key competency(キー・コンピテンシィ)・鍵となるような基本的な能力とは何か—」という大研究を行い、その研究の成果が発表されました。
4. その大研究の中で出された結論の1つが、「教育の目指すべき目標は、一人ひとりが自分自身を律しながら活動できる能力を身に付けることである」というものです。「自律的に活動する」とは、社会的に孤立して働くということの意味しているではありません。個人が、自分の社会的な関係や自分の果たしている役割、自分の果たしたい役割といった自分の環境に気づくことがまずは求められるのです。
5. 例えば、働く場合には、自分自身の生活やいろいろな働く環境とを調整しながら自分の生活を意味のあるものにし、責任を持つようなやり方で自分自身を管理・コントロールできるような力を持つことが人間には求められるのだと思います。
6. これは、社会の発展に効果的に参加したり、職場・家庭・社会など生活を営む場所で自分自身をよりよく生かしながら働いたりするためには、一人ひとりが自分自身を律し・コントロールして自律的に活動しなければならないということの意味します。つまり、大勢(たいせい)に従うというのではなく、自分自身が独立をしながら自身を成長させ、そして自身の生き方を選択することで、人間は自分の価値や大切さや活動について考えられるのではないかということです。このような観点から、OECDの研究の成果の中で「自律的」という言葉が非常に大切にされています。
7. では、どのようなことが「自律的」なのでしょう。その1つは、大きな展望の中で活動できるということだろうと思います。例えば、世の中の因果(原因と結果)関係について「こうすれば、こ

うなる」というパターンが認識できることや、自分たちが存在している国・社会・会社・学校・サークルなどのしくみのいろいろなシステムについて理想を持つことは、とても大事であると思います。

8. また、自分の行動の直接的・間接的な結果を知ること大事だと思います。例えば、お金を借りすぎてそれが返せない状況になったときにはどうなるのか、健康診断を受けて悪い値が出た場合にそのまま放置しておくとうどうなってしまうのかなど、いろいろな場面場面で自分の行為や行動の直接的・間接的な結果を自分で知ること大事になるということです。

9. それから、国や地域社会、職場、学校など個人が属するいろいろなところには共通のルール・規範というものがあります。その共通のルール・規範に照らして起こり得る結果を考えながらそれに反するやり方を避けたり、あるいは、たくさんある目標に到達するやり方の中から1つを選択したりすることができることも大事な能力だと思います。

10. さらに、人生設計と申しますか、これから山に登りたい、ここに行きたい、こんな仕事をしたい、こんな人生が歩みたいなどということ自分で毎日の生活を設計する、人生を設計して実行に移すことも大事な能力の1つです。これは、個人の活動計画を考えるときにも役に立ちます。

11. 人生はとかくバラバラになりがちで流されやすいものです。そうではなく、人生をまとまった大切な自分自身の物語と見なして、変化する環境の中でそこに意味と目的を与えることが非常に求められます。

12. そこで、人生設計は、自分の可能性を楽観視しつつ、実際に実現できるかを考えて設計するとよいと思います。「可能性の楽観視」と「実現化」の2つを確実に行っていくと、非常によい生活ができると思います。

13. 具体的には……、(1)自分で自分の計画を決める (2)目標を決める (3)自分が利用できる資源や必要とするものなどの現状を知って時間やお金を決める (4)たくさんある目標に優先順位を決めて整理する (5)目標の実現のために今あるお金をバランスよく使う (6)過去に経験したことからいろいろなことを学び、将来の成果を計画する (7)今やっていることの進行状況をチェックしながら、将来の発展に応じて必要な調整を行うこと……
などであると思います。加えて、(8)社会的な形で自分の権利や利害、限界などを自分自身で表現することも大事であると思います。

14. 今日の放送でお話したのは、「人間にとってどのような能力が必要か」ということです。OECDがそれについて研究し、「key competency(鍵となるような能力)とは、自分自身を律しながら自律的に活動できる能力である。それが教育の目標の1つである」という結論を発表しましたので、それを踏まえて、自律的に活動するとはどういうことかについてお話をさせていただきました。

放送をお聴きの皆さんにも、このことについてぜひお考えいただければと思います。

— 2013年2月17日(日)加筆・訂正 林 明夫記 —